

1. 上海に「梅屋庄吉像」登場



11/04、上海市の中心部の紹興公園に、中国の辛亥革命を指導した孫文を物心両面で支えた長崎県出身の実業家「梅屋庄吉(1808~1934年)」の銅像がお目見えした。銅像は、長崎県が辛亥革命100周年と、長崎・上海の友好都市関係樹立15周年を記念して寄贈し、梅屋や孫文が居住していた近所の、紹興公園に建てられた。

紹興公園は市内中心部にあり、小さな公園であった。梅屋像以外には、なにも記念像のようなものはなく、老人や子供の遊びになっていた。また簡単な運動器具なども設置されており、運動に汗を流している人もいた。子供たちが梅屋像によじ登って遊んでいたが、側にいた母親らしき人も含めて、だれも咎める人はいなかった。

2. 12/04、「東レ杯上海マラソン」開催

12/04の朝7時半、外灘の陳毅像前から、多くのマラソンランナーが走り出した。今年の参加人数は昨年の22000人から26000人と増え、全員がスタートし終わるまで、17分かかった。外国人は5250人ほどとなり、結構、その姿が目立っていた。東レ杯であったせいか、かなり警備員も多いような気がした。今年は優勝賞金も25000ドルから45000ドルへアップされ、多くの若者たちが、朝の寒さを熱気で吹き飛ばすように走り出し、多数の応援者も旗を振ったり、大きな声援をおくったりしていた。



3. 上海市内の百貨店が年末セールに突入

12/02から始まった上海市内の百貨店の年末バーゲンセールに、多くの客が殺到し、一部店舗では大混乱した。ことに「巴黎春天:五角場店」では、2~4日にかけて2夜連続48時間営業で大割引セールを行った。店内の商品の多くは、7割引に近く、入り口にお客が殺到し警備員を押し倒すなどの騒ぎとなった。市内の多くの百貨店も、急拡大するインターネット販売の年末セールに対抗し、例年より早く年末商戦に突入したという。私が12/09に「巴黎春天」に行ったときでも、「199元以上買い上げたお客さんには100元の値引きをします」という割引セールを行っており、店内は結構、賑わっていた。



《 巴黎春天:五角場店 》

4. 上海「久光百貨」で防犯BGM

歳末商戦たけなわの上海市の「久光百貨」では、店内のBGMを利用した防犯対策を講じて、効果をあげているという。同対策は、セキュリティ部門が見覚えのある窃盗・万引き犯などが入店した場合、通常のBGMよりテンポの速い音楽を流し、店員に緊張感を与え、よりいっそうの注意を促すもの。その他、雨が降ってきたときには、水がしたたり落ちる音楽を流したりして、店員からお客さんに伝えるようにしているという。

私が「久光百貨」に入ってBGMを聞いたときは、普通の音楽のようだったので、店員にたずねてみると、「現在は普通の音楽です。ときおりテンポが速いBGMが流れてくるので、そのときは緊張します」と話してくれた。

5. 閑古鳥が鳴く上海市内の不動産屋



この数日、私の携帯電話に、しきりに不動産仲介業者から、マンション購入の勧誘のメールや電話がかかってくる。それは物件の2割ダウンで話が始まり、まだ交渉可能だという。それでもまだ物件売却希望者が多く、購入客はほとんどなく、不動産屋の店頭では閑古鳥が鳴いている状況である。中には店を閉めてしまった業者もある。

最近の民間保険業者の調査によると、中国の富裕層の住宅保有数は平均3.3軒であることがわかった。つまりこの富裕層がマンションを買い占めており、バブル状況を作り出しているのであり、バブル崩壊でもっとも痛手を被る層である。

《 市内の閉鎖された不動産屋 》 市外の物件にも買い手がなく、ほとんど動きがない模様。

6. 上海万博跡地の「上海国際カーニバル」閉園

11/30、上海万博跡地で開催されていた移動式遊園地「上海国際カーニバル（上海国際嘉年華）」が、7/28から95日間の営業を終え、閉園した。多くのアトラクションが楽しめるというふれこみだったが、当局の安全検査が遅れ稼働できなかったり、地下鉄から15分ほど離れていたため、来場客が66万人にとどまり、閉鎖という結果になった。サービスも不評だったようだ。

現在、万博跡地は建物の取り壊し中であり、大型トラックが行き交っている。



7. エレベーターのメンテナンス

鄧小平の「南巡講話」以降、すでに20年が経過した。その間に上海は大発展し、今や市内のいたるところに高層ビルやマンションが林立している。その景観は、見る者を畏怖させるほどである。しかしながらこの急発展の陰で、最近、問題点が多く浮かび上がってきている。その一つが、エレベーターの老朽化問題である。上海市内に設置されているエレベーターのうち、1/4が今後5年以内に、15年の使用期限を越えるといのである。現在でもエレベーターの事故は相次いでおり、今後、急増していくものと思われる。

もともとエレベーターやエスカレーターは、専門業者の保守メンテナンス作業が不可欠であり、そこにかかなりの費用が発生するのは、先進各国では常識となっている。しかし中国では、ビル管理会社はエレベーターの保守に責任を持つ意識が希薄であり、メンテナンス会社は急増するエレベーター需要に追いつくメンテナンス体制を整えていない。またメンテナンスができる熟練工も不足している。当局は、メンテナンス企業の設立認可をより厳格にするなどの対策を取っている。

重慶市でも、最近、エレベーター事故が多発している。今年は11月末までの時点で2392件、1日約7回の事故が起きている。市内のエレベーターの台数は約46000台で、毎年2割ずつ増えており、使用年数が10年以上の老朽化したエレベーターが約1800台あるという。

今後、このような急成長のヒズミは、インフラを含めて中国全土の随所であらわれ、それに対する費用が莫大なものとなり、これが中国の経済成長の足かせになる可能性もある。

8. ニセ宅配業者事件

上海市警察は、インターネット通販の着払い顧客情報を不正に入手し、上海や北京などの中国各地で宅配業者を装って、一足先に別の商品を届けて金を騙し取っていた詐欺グループを摘発した。

このところ中国では、無認可の宅配業者が激増しており、そのうちの悪質な部分が摘発された模様。一説では、無認可の宅配業者（モグリ業者）は、正規業者と同数ほど存在しているという。それらの大半は、問題を起さず営業を展開している。宅配を委託する業者も、モグリ業者の方が、料金が安いのでそれを有効活用している。

今回はモグリ宅配業者が問題となったが、中国では、なにか事件が起きるたびに、その背景としてモグリ業者問題が浮上してくる。驚いたことに、最近、北京では警備会社のモグリ業者が大量にはびこってきているという。数日前の日本のメディアでも、四川省で白タク運転手が取り締まり中の警官を、ボンネットに乗せたまま暴走したということが報道されていたが、この白タクも中国全土に相当数はびこっているモグリ業者の類である。

9. スクールバス、一斉検査

11/17、上海市教育委員会は市内の通園、通学バスに対し、定員超過で運行していないかなどを一斉調査するように各区県に緊急通知した。このところ中国では、幼稚園の送迎バスなどの事故が相次ぎ、極端な定員超過で走行している場合が多いことが発覚、問題視されている。しかもこのような問題が噴出しているときに、中国政府がマケドニアに通学バス23台を無償援助したため、ネット上では批判が数十万件に上った。その後、政府関係者や古参外交官などが火消し発言をしたため、やっと収まった。

- 11/16、甘粛省で幼稚園の送迎バスが大型トラックと衝突。園児19人を含む21人が死亡。定員9名のバスに64人の園児が乗っていた。
- 11/29、河南省で幼稚園の送迎バスがトラックと衝突。園児10人が負傷。定員9名のバスに16人が乗車していた。
- 11月中旬、中国政府、バルカン半島のマケドニアに通学バス23台の寄贈を発表。
- ネット上では、「自国のことが解決できていないのに、なぜ多国に援助なのか」、「マケドニアの教育費は GDP の5%、中国は4%。2010年のマケドニアの1人当たり平均収入は4540ドル、中国は3650ドル。それなのになぜ無償援助をしなければならないのか。マケドニアの子供の方が、ずっと幸福だ」などの批判で炎上した。
- 11/28、外務省副報道局長が、「援助は相互のものだ。マケドニアは四川大地震で対中援助をしてくれた」と発言。

・古参外交官:呉建民氏のネット上での発言

我が国のスクールバスは、まだ良いとは言えない。この問題解決に向けて、政府はすでに動いているとは思ふ。しかし、他の人より良く発展してから援助するのは、表向きは良く見えるが、実質的には損をすることになる。

このことについて、多くの方は、誤解しており、世界のことは全て繋がっていることについて理解していないと思う。例えば、他人に対する援助は、必ずしも自分より貧乏でなければならないことではない。例えば、災害が発生した時、皆から援助が入る。我々が援助する国は、私たちより豊かである場合だってある。しかし、災害に見舞われたので、助け合うのは、当然である。

マケドニアは、一人当たりの GDP は中国より高いが、抱えている問題もある。国と国の関係を発展している中で、スクールバスを援助するのは、問題ない。

中国は、何と言っても大国である。世界の中における信用はどこにあるのか。人間味や道義があり、他の国に対して関心を寄せている国でなければ、他の国から好まれない。中国の発展は、世界と切り離すことが出来ない。

中国の発展は、世界との関係が緊密であるため、スクールバスに問題があるからと言って、援助しないという事は良くないと思う。

以前、中国が相当苦しい時でも、タンザニアやザンビアに、鉄道の建設に援助したことがある。1.5 億ポンド掛かった。

当時、一般民衆からも批判が有った。民衆には民衆の視点がある。1.5 億ポンドは、当時、中国の外貨準備高の 3 分の 1 に当たる金額である。援助の結果として、アフリカ諸国に対する政策が西方諸国と明らかに対照的であった。鉄道が完成した時、タンザニアの総統は、過去、色んな国がアフリカで鉄道や道路建設を行ったが、いずれも略奪のためであった。中国が私たちのために鉄道を作ったのは、アフリカの発展のためである。中国人は本当にアフリカのために助けてくれている、と話している。

1971 年、中国が連合国に復帰した時、毛主席は、「アフリカの兄弟達が連合国の中へ運んでくれた」と感銘していた。1971 年、中国と国交がある国は 64 カ国しかない。多くの発達国家は、中国と国交がなかった。1978 年に改革開放政策を実行しているが、多くの発達国家が中国と国交を結んだのは、連合国へ復帰してからとなった。1971 年に連合国へ復帰していなければ、1978 年に世界へ向けて開放することが出来たのだろうか。中国に今日のような発展を遂げる事が出来たのだろうか。

アフリカに対する援助にはお金が掛かったが、開放するための基礎を作る事が出来た。

寄贈することは、好意があるから寄贈することである。困難な時に助け合うのは、国と国との間に平等互利の関係であり、貧乏か裕福かとは関係がない。

中国の汶川地震の時だって、貧乏な国からの援助も多かった。これは、人間として相互友愛の感情であり、大事なことである。

・12/11、國務院法制弁公室は、「スクールバス安全条例草案」をまとめ、一般意見の公募を始めた。草案には、スクールバスの時速制限を60km以下とする、公共バス専用レーンを設ける、安全上に問題のあるミニバンなどの非専用車を3年以内に淘汰する、そのための補助金や優遇税制などの財政負担は中央政府と地方政府で分担する、などが盛り込まれている。

☆ある新聞によれば、国内の小中学生は2億3千万人とされており、このうち児童・生徒1億人がスクールバスを使用した場合、40～50万台が必要となるため、毎年13～16万台の新規需要が生まれることになり、国内の商用車メーカーはこの降って湧いたような商機に色めき立っているという。なお現時点の国内の商用車メーカーの年間総生産台数は30～40万台である。

以上